

佐久大学における第28回日本母乳哺育学会・学術集会の開催報告

著者	川? 佳代子, 弓削 美鈴, 木下 珠希
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌
巻	6
号	1
ページ	39-45
発行年	2014-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1050/00000126/



活動報告

佐久大学における 第 28 回日本母乳哺育学会・学術集会の開催報告

The 28th Japanese Society for Breastfeeding Research · Scientific Sessions
at Saku University

川崎 佳代子 弓削 美鈴 木下 珠希

Kayoko Kawasaki, Misuzu Yuge, Tamaki Kinoshita

キーワード：日本母乳哺育学会，学術集会，母乳育児サイエンス

Key words : The Japanese Society for Breastfeeding Research, Scientific Sessions,
Breastfeeding Science

要旨

本学において、2013年9月14日（土曜）、15日（日曜）の2日間にわたって、佐久大学の全面的な支援を受けて開催された第28回日本母乳哺育学会について報告する。

最初に日本母乳哺育学会とはどのような学術団体なのかについて紹介した。日本母乳哺育学会は、母乳哺育を科学的にアプローチし、社会に還元することを目的とし、助産師、小児科医師、産婦人科医師、基礎医学研究者等で構成される学会である。続いて、第28回日本母乳哺育学会学術集会内容についての詳細、学術集会開催までの準備・開催結果等の全容について報告する。日本母乳哺育学会の毎年の学術集会長は今まで全部医師がつとめてきた。今回はじめて、助産師が学術集会長に指名されたことを意義深く受け止めて、メインテーマを「安全・安楽・根拠にもとづく母乳育児支援」とした。実習病院からも多くの参加をいただいた。母乳育児支援について振り返る機会を提供できたものと自負している。

はじめに

第28回日本母乳哺育学会学術集会在、2013年9月14日（土曜）・15日（日曜）の2日間にわたって本学で開催された。日本母乳哺育学会は、総会員数が400名という小規模な学会である。従って毎年開催される学術集

会の出席者数も大体200名前後で推移している。今回の出席者数も198名と例年とあまり変わらない出席者数であった。本報告では、まず日本母乳哺育学会とはどのような学会であるのかを述べ、ひきつづき、佐久大学の全面的な支援を受けて実施した第28回日本母乳哺育学会学術集会についての詳細、学術集

受付日 2013年12月17日 受理日 2014年2月13日
佐久大学看護学部 Saku University School of Nursing

会開催までの準備・開催結果等の全容について報告する。

I. 日本母乳哺育学会の概要

1. 日本母乳哺育学会について

日本母乳哺育学会は、現東京大学名誉教授の小林登先生が、ニューヨークのコロンビア大学のマーガレット・ミード教授のもとで文化人類学を学んだDana Raphaelが書いた、“The Tender Gift, Breastfeeding”という本を現地で買い求め、伝統文化の社会の母親達の母乳哺育には、“doula”「ドゥーラ」と呼ばれる女性がいたこと、しかし先進社会では、そういった役を果たす女性がなくなったことが、母乳哺育の実践者が減り、母乳分泌不全を起こし、ひいては育児問題が多くなった原因だと学び、母乳哺育問題の研究には、文化人類学的発想が必要であり、それには人間についての学際的、環学的な文理融合科学が柱となるという考えに至ったことが発足の出発点になった（小林, 2007）。

小林登先生は、それを契機として、育児学や母乳哺育学の体系付けを考え始め、後にベストセラーとなった、「母乳哺育」をメディアサイエンス社から出版された。

1980年代に入って、母乳哺育率の著しい低下が社会問題となり、行政ばかりでなく、小児科医、産科医、助産師、保健師等各職種も母乳哺育を何とか立て直さなければならぬと考え始める機運が高まった。

そのような流れの中で、母乳哺育を重視するプロフェッショナルの中には、母乳哺育を狂信的に推進させようとする動きもあって母乳哺育の将来が危惧される中で、母乳の生化学、母乳分泌の生理学ばかりでなく、正しい人間の営みとしての母乳哺育の在り方を広く探る必要性を感じて、小林先生を中心として「日本母乳哺育学会」が設立された（小林, 2007）。

そういう経緯を経て、日本母乳哺育学会は、1986（昭和61）年に、当初日本母乳哺育研究会として発足したが、1997（平成8）年の第11回から、日本母乳哺育学会と改称して現在に至っている。

現理事長は、昭和大学医学部小児科学講座教授、板橋家頭夫先生がつとめられ、会員数は約400名で、助産師他看護職、小児科医師、産婦人科医師、基礎医学研究者等で構成される。

2. 過去の学術集会会長名・会場

過去の学術集会会長名・会場を表1に示した。従来の学術集会会長は、全員産婦人科医師または小児科医師が務め、助産師等看護職は含まれていない。

II. 平成25年度開催：第28回日本母乳哺育学会

1. 学術集会会長就任の経緯

平成22年度の日本母乳哺育学会理事会・総会において、私、川崎が第28回日本母乳哺育学会学術集会会長に任命された。助産師の会員が多いにもかかわらず、表1に示す通り歴代会長のほとんどが、小児科または産婦人科の医師であったことから、看護職の学術集会会長の誕生が期待されており、川崎が、長年理事をつとめていた関係で引き受けざるを得なかったというのが経緯であった。

2. 学術集会メインテーマ及び内容

昨年の学術集会テーマは、「サイエンスを基盤とした母乳育児の展開をめざして」、一昨年は「母乳をめぐる環境を考える」であり、従来の学術集会は「母乳のサイエンス」に力点を多くおいてきたように思われる。今回、日本母乳哺育学会では、はじめて、助産師である本学教授が学術集会会長に指名されたことを意義深く受け止めて、開催内容を検討した。

表 1 歴代学術集会長・会場

学術集会回・開催年数	学術集会長	職 名	会 場
第 1 回 (昭和61年)	小林登	東京大学医学部教授	順天堂大学有山記念講堂
第 2 回 (昭和62年)	小林登	東京大学医学部教授	順天堂大学有山記念講堂
第 3 回 (昭和63年)	小林登	国立小児病院院長	全日空ホテル(東京)
第 4 回 (平成1年)	小林登	国立小児病院院長	順天堂大学有山記念講堂
第 5 回 (平成2年)	小林登	国立小児病院院長	順天堂大学有山記念講堂
第 6 回 (平成3年)	守屋哲朗	川崎医療短期大学教授	川崎医科大学現代医学博物館
第 7 回 (平成4年)	財満耕二	東京農業大学農学部教授	東京農業大学 1 号館
第 8 回 (平成5年)	黒梅恭芳	群馬大学医学部教授	群馬会館
第 9 回 (平成6年)	山城雄一郎	順天堂大学医学部教授	東京ガーデンパレスホテル
第10回 (平成7年)	青野敏博	徳島大学医学教授	徳島厚生年金会館
上記第 1 回～第10回までは「日本母乳哺育研究会」として運営、下記第11回以降は日本母乳哺育学会学術集会に改称			
第11回 (平成8年)	植地正文	日本赤十字看護大学教授	横浜シンポジア
第12回 (平成9年)	小池通夫	和歌山県立医科大学医学部教授	和歌山市民会館
第13回 (平成10年)	桑原慶紀	順天堂大学医学部産婦人科教授	順天堂大学有山記念講堂
第14回 (平成11年)	橋本武夫	聖マリア病院母子総合医療センター長	三瀬ルーベル牧場
第15回 (平成12年)	島本郁子	奈良県立医科大学看護短期大学部教授	奈良県新公会堂
第16回 (平成13年)	牛島廣治	東京大学健康科学部教授	東京大学弥生講堂
第17回 (平成14年)	佐藤郁夫	自治医科大学産婦人科教授	栃木県総合文化センター
第18回 (平成15年)	戸谷誠之	昭和女子大学 生活機構学 教授	昭和女子大学 オーロラホール
第19回 (平成16年)	小林美智子	県立長崎シーボルト大学看護栄養学部教授	アルカス S A S E B O / ハウスステンボス
第20回 (平成17年)	堀内勁	聖マリアンナ医科大学小児科教授	横浜市民文化会館 関内ホール
第21回 (平成18年)	根津八紘	諏訪マタニティクリニック院長	諏訪市文化センター
第22回 (平成19年)	石井廣重	石井第一産科婦人科クリニック院長	浜松市アクトシティ
第23回 (平成20年)	山内芳忠	国立病院機構岡山医療センター臨床研究部長	岡山コンベンションセンター
第24回 (平成21年)	合阪幸三	医療法人財団小畑会 浜田病院副院長	東京ステーション サビアタワー5 階
第25回 (平成22年)	梅田馨	山口市梅田病院理事長	山口県光市市民ホール
第26回 (平成23年)	杉本充弘	日本赤十字医療センター副院長	日本赤十字看護大学広尾キャンパス
第27回 (平成24年)	板橋家頭夫	昭和大学医学部小児科学教授	昭和大学上條講堂

母乳育児の重要性は論を待たない。そして出産後のお母様たちのほとんど100%に近い方が母乳育児を希望されているにもかかわらず、この30年余、母乳栄養のみで育児できている人は40%台に留まってきた。平成22年乳幼児身体発育調査の概況（厚労省発表）によれば、平成22年では生後1～2カ月で51.6%、4～5カ月でも55.8%と好転の兆しも見えているように思われる。そこで今回は、学術集会メインテーマを「安全・安楽・根拠にもとづく母乳育児支援」とし、多くの基礎医学研究者とともに、母乳育児支援のエキスパートである、助産師・看護師等、看護職の皆様にも多数集っていただき、自分たちの業務を振り返る機会にしてもらうことを意図して学術集会内容を決定した。

3. 第28回日本母乳哺育学会の開催日程と会場、メインテーマ

日程：平成25年9月14日（土曜）、15日（日曜）

場所：佐久大学 2300教室

メインテーマ：「安全・安楽・根拠にもとづく母乳育児支援」

4. 開催内容の概要とプログラム

1) 学術集会の概要

教育委員会主催の「勉強会」では、母乳育児の継続に重要な、WHO・UNICEFの乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略にも謳われる、「地域との連携」に焦点を当て、学術集会では、母乳育児支援の基本的な考え方や支援技術、母乳育児に対するわが国の考え方と基本施策など、母乳育児支援の基本にかかわる講演やシンポジウムを企画した。同時に、母体の感染症時の対応や、母乳育児をし

表2 日程表

会場：佐久大学 2300教室 他

【1日目】 9/14 (土)	【2日目】 9/15(日)	
8:25 ~ オリエンテーション		
8:30 ~ 10:30		
<p style="text-align: center;">教育委員会主催勉強会 「地域における母乳育児支援」</p> <p>総合司会：宇津野 博 (宇津野医院) 座長：涌谷 桐子 (沖縄県立看護大学) 楯 亜希子 (東京医科歯科大学) 演者：滝 元宏 (昭和大学医学部小児科学講座) 中島 ゆかり (佐久穂町役場健康福祉課保健係) 黒澤 かおり (東御市立助産所とうみ) 田辺 佳代子 (NPO法人まんま)</p>	2300教室	2200教室
	<p>9:00 ~ 9:40</p> <p style="text-align: center;">一般演題 セッション1</p> <p>テーマ：母乳育児の基礎研究 座長：黒川 賀重</p>	<p>9:00 ~ 9:40</p> <p style="text-align: center;">一般演題 セッション3</p> <p>テーマ：栄養方法、その他 座長：山田 恒世</p>
	<p>9:40 ~ 10:30</p> <p style="text-align: center;">一般演題 セッション2</p> <p>テーマ：母乳育児の周辺 座長：本間 和宏</p>	<p>9:40 ~ 10:30</p> <p style="text-align: center;">一般演題 セッション4</p> <p>テーマ：低出生体重児、その他 座長：弓削 美鈴</p>
10:40 ~ 10:45 理事長挨拶・開会の辞	10:40 ~ 11:30	
<p>10:50 ~ 11:20 特別講演 I</p> <p style="text-align: center;">地域医療先進都市佐久市における母子保健の取り組み</p> <p>座長：板橋 家頭夫 (昭和大学医学部小児科学講座) 演者：工藤 正子 (佐久市役所健康づくり推進課)</p>	<p>教育講演 II</p> <p>再度、母乳代用品の販売流通に関する国際基準について</p> <p>座長：山内 芳忠 (吉備国際大学保健医療福祉学部) 演者：関 和男 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)</p>	
<p>11:30 ~ 12:00 会長講演</p> <p style="text-align: center;">母乳育児と母親への影響 ～調査結果のレビューから～</p> <p>座長：関 和男 (横浜市立大学附属市民総合医療センター) 演者：川崎 佳代子 (佐久大学看護学部)</p>	<p>11:40 ~ 12:40 ランチョンセミナー II</p> <p>科学的根拠に基づいた搾乳支援 ―ダブルポンプの有効性について―</p> <p>演者：水野 克己 (昭和大学医学部小児科学講座) Towards the development of evidence based clinical practice guidelines for human lactation 演者：Peter Hartmann (西オーストラリア大学) 共催：メデラ株式会社</p>	
<p>12:10 ~ 13:10</p> <p style="text-align: center;">ランチョンセミナー I</p> <p style="text-align: center;">多価不飽和脂肪酸と子どもの脳・神経発達</p> <p>座長：板橋 家頭夫 (昭和大学医学部小児科学講座) 演者：清水 俊明 (順天堂大学医学部附属順天堂医院) 共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社</p>	<p>12:50 ~ 13:50</p> <p style="text-align: center;">特別講演 II</p> <p style="text-align: center;">母乳育児に対する国の考え方と基本施策</p> <p>座長：戸谷 誠之 (元昭和女子大学大学院生活機構学) 演者：瀧本 秀美 ((独)国立健康・栄養研究所栄養教育部)</p>	
<p>13:20 ~ 14:20</p> <p style="text-align: center;">教育講演 I</p> <p style="text-align: center;">母乳育児確立、そして継続するための基本的な支援</p> <p>座長：杉本 充弘 (日本赤十字社医療センター) 演者：堺 武男 (さかいだけお赤ちゃんこどもクリニック)</p>	<p>14:00 ~ 16:30</p>	
<p>14:30 ~ 16:50</p> <p style="text-align: center;">シンポジウム I</p> <p style="text-align: center;">母乳育児の確立を目指す支援技術</p> <p>座長：石井 廣重 (石井第一産科婦人科クリニック) 水野 克己 (昭和大学医学部小児科学講座) 演者：柳村 直子 (日本赤十字社医療センター看護部教育企画室) 新井 基子 (高崎健康福祉大学保健医療学部) 松原 まなみ (聖マリア学院大学看護学部) 宮下 美代子 (みやした助産院)</p>	<p>シンポジウム II</p> <p style="text-align: center;">母親の感染症と母乳育児</p> <p>座長：本間 和宏 (東京農業大学応用生物科学部栄養科学科) 森内 浩幸 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 演者：沖津 祥子 (東京大学大学院医学系研究科・日本大学医学部) 板橋 家頭夫 (昭和大学医学部小児科学講座) 森内 昌子 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 長田 郁夫 (子育て長田子どもクリニック) 大山 牧子 (神奈川県立こども医療センター)</p>	
	<p>16:40 ~ 17:10</p> <p style="text-align: center;">奨励賞表彰式 次期会長の挨拶 閉会の辞</p>	
<p>17:00 ~ 17:30</p> <p style="text-align: center;">日本母乳哺育学会総会</p>		
<p>18:00 ~ 20:00 懇親会 佐久ランドホテル</p>		

ないことを選択する、また母乳育児が上手くいかなかった母親への支援等の内容を含むシンポジウムを組み入れ、さまざまな立場のお母様方へ対応できるサイエンスを基盤とした根拠のある支援に焦点を当てるものとした。

2) 学術集会プログラム

学術集会プログラムは、表2に示す通りで、“安全、安楽、根拠に基づく母乳育児支援”に焦点を当てた、1 会長講演、2 特別講演、2 教育講演、2 シンポジウムに加えて一般演題発表と充実した内容になった。

Ⅲ. 学術集会開催準備

学術集会を準備するために、約1年前から「準備委員会」を立ち上げた。

1. 学術集会準備委員会委員の構成

学術集会の準備を担う準備委員会委員は、学術集会開催日が、看護学部・別科助産専攻とも実習を開始して1週目ということを勘案

して、他の領域には迷惑をかけるわけにはいかないという結論に至り、母性看護学・助産学担当の8人の教員に「小児看護学担当の教員」がポスター作成で参加してくれる形で実行することになった。

2. 準備委員会の開催

学術集会準備委員会は、表3に示す通り、学術集会当日から約1年前の平成24年9月2日に第1回を開催し、その後1~2か月に1回開催、全12回開催した。

3. 役割分担

役割分担は、表4に示すように、一人1~2の役割を分担した。

4. ホームページの立ち上げと管理

佐久大学の学事課、桶田真吾さんの全面的なご協力の下で、2月早々にホームページを立ち上げ、随時更新を行いながら、学術集会後無事に閉じることができた。

表 3 学術集会準備委員会

回	日程	主な議事
第1回	平成24年9月21日(金)	第28回日本母乳哺育学会プログラム案、準備委員会年間スケジュール、ホームページへのup内容、準備委員会役割分担等
第2回	平成24年12月18日(火)	第28回日本母乳哺育学会運営予算、講演者・座長への依頼文発送、ポスターについて、応募演題の採否、学会事務局の設置等
第3回	平成25年1月25日(金)	母性・助産教員への準備協力の依頼、ポスター原案、県内協賛企業へのアタックと交渉
第4回	平成25年3月18日(月)	ランチョンセミナー2日分の詳細、教育委員会主催勉強会内容、講演者への抄録集原稿依頼、協賛企業への対応、請求書の作成と発送等
第5回	平成25年4月25日(木)	ホームページの追加・更新up、2回のランチョンセミナー企業決定、学会当日の運営等
第6回	平成25年6月6日(木)	教育委員会主催勉強会企画内容、予算案、講演者謝礼粗品と食事等、別科修了生へのPR、その他機関へのPR等
第7回	平成25年6月25日(火)	教育委員会主催勉強会パネリスト候補者、修正予算案、これからの業務等
第8回	平成25年7月9日(火)	教育委員会主催勉強会企画確定、一般演題発表方法、懇親会場との打ち合わせ、バリアフリー支援等
第9回	平成25年8月1日(木)	託児の内容と方法、指定演題者への学会誌投稿依頼文の作成と発送、当日の運営、抄録集・広告の掲載等
第10回	平成25年8月9日(金)	ホームページ更新(託児について、開催内容、プログラム、会場までの案内他)
第11回	平成25年8月27日(火)	事前登録者・招待者への抄録集等発送作業、学生ボランティアへのオリエンテーション、当日の運営等
第12回	平成25年9月3日(火)	招待者、協賛企業、演題発表者、事前登録者、懇親会料理飲み物数最終確認、懇親会進行等

表4 学術集会の準備委員会の構成

役割分担	担当者名
事務局担当(窓口)	弓削美鈴・木下珠希
実行委員長	弓削美鈴
渉外	清水久美子
会計・会計補佐	木下珠希・臼井淳美
ポスター作成	橋本佳美
企業広告	上原明子
懇親会・ランチョン弁当	高橋智恵
当日会場	高橋智恵
抄録集・ホームページ	臼井淳美・中田覚子

5. 学術集会当日に向けた準備

1) 学生ボランティア募集とオリエンテーション (学会事務局長を中心に各担当の先生方)

学術集会当日2日間の運営のために学生ボランティアを募集した。別科助産専攻の学生16名については、「助産学実習Ⅲ」の実習日に1日を当てることとし、残り1日はボランティアとして協力してもらった。その他に、4年次生を中心にボランティアに応募してくれた看護学部学生13名を加えて、29名が参加して、9月3日(火)ⅢⅣ時限にオリエンテーションを行った。

2) 事務局職員の方々に当日支援のお願いとオリエンテーション (学会事務局長)

バスの運行業務、情報機器保全業務、その他接待等について、延べ6名の方々にご協力をいただいた。2回に分けてオリエンテーションを行った。

3) 招待状の発送

実習病院(佐久総合病院2名分、浅間総合病院2名分、篠ノ井総合病院2名分、花岡レディースクリニック1名分)、佐久市役所(1名分)、日本助産師会(1名分)に発送した。

V. 学術集会開催結果

1. 参加者

参加者は表5に示す通り、事前登録者99名、当日参加67名、招待者32名、合計 198名

表5 参加者

	会員・非会員別	人数	合計
事前登録	会員	40	99
	非会員	56	
	学生	3	
当日参加	会員	42	67
	非会員	24	
	学生	1	
招待参加		32	32

招待参加内訳：
非会員の指定演者・シンポジスト・座長
他：実習病院等

であった。

2. 一般演題

16題の一般演題が登録された。査読・修正作業の後、学術集会当日、「母乳育児の基礎研究」「母乳育児の周辺」の2セッションを2300教室で、「栄養方法その他」「低出生体重児、他」の2セッションを2200教室と2会場に分けて発表が行われた。

3. 企業協賛

ランチョンセミナーについては1日目を「ノボルディスクファーマ株式会社」が、2日目を「メデラ株式会社」が参加者180名分の昼食と講師謝礼等の協賛に応じてくれた。その他、抄録集への広告は、見開き頁1社、1頁6社、1/2頁6社、合計13社、展示4社に協賛に応じていただいた。

4. その他

1) 学術集会2日目に、信濃毎日新聞記者の取材があり、翌9月16日(日)の新聞紙上にシンポジウムⅡの写真入りで、シンポジストへのコメントも含めて掲載された。

2) 学術集会参加による専門医認定シールの発行

下記3種が専門医認定シールの対象になり、申出者に対して所定の手続きを行った。
・日本産科婦人科学会専門医10単位および日本産婦人科医会研修参加証シール

・日本周産期・新生児医学会 周産期専門医
研修（参加2単位＋筆頭演者2単位）参加
証シール

・日本小児科学会 専門医制度研修（参加3
単位）参加証シール

3) 懇親会

学術集会1日目終了後、大学バスのご協力をいただき、約70名余りが「佐久グランドホテル」に移動して和やかな雰囲気の中で懇親会を行うことができた。檜山名誉理事長、盛岡理事長、宮地副学長のご参加をいただいた。

おわりに

台風到来のニュースが駆け巡る中、2日目まで多数の出席者がお残り下さり、最後の表彰式まで恙なく盛会裏に終了できました。第

28回日本母乳哺育学会を無事に終了した今、学術集会にお集りいただいた出席者の皆様にこころから感謝申し上げます。

また、学術集会開催まで、そして当日の運営にご支援をいただきました、日本母乳哺育学会理事をはじめとする役員の皆様に感謝申し上げます。

全国の関係者から、佐久大学の学術集会は心のこもったものだったという数多くのメッセージをいただきました。学術集会開催までの準備、当日の運営など、渾身のご協力をいただいた佐久大学関係の皆様への、感謝の気持ち一杯でこの稿を閉じたいと思います。

引用文献

小林登 (2007). 日本母乳哺育学会と私. 日本母乳哺育学会雑誌, 1(1), 3.